



9784766200423

ISBN978-4-7662-0042-3

C2076 ¥3714E



1922076037140

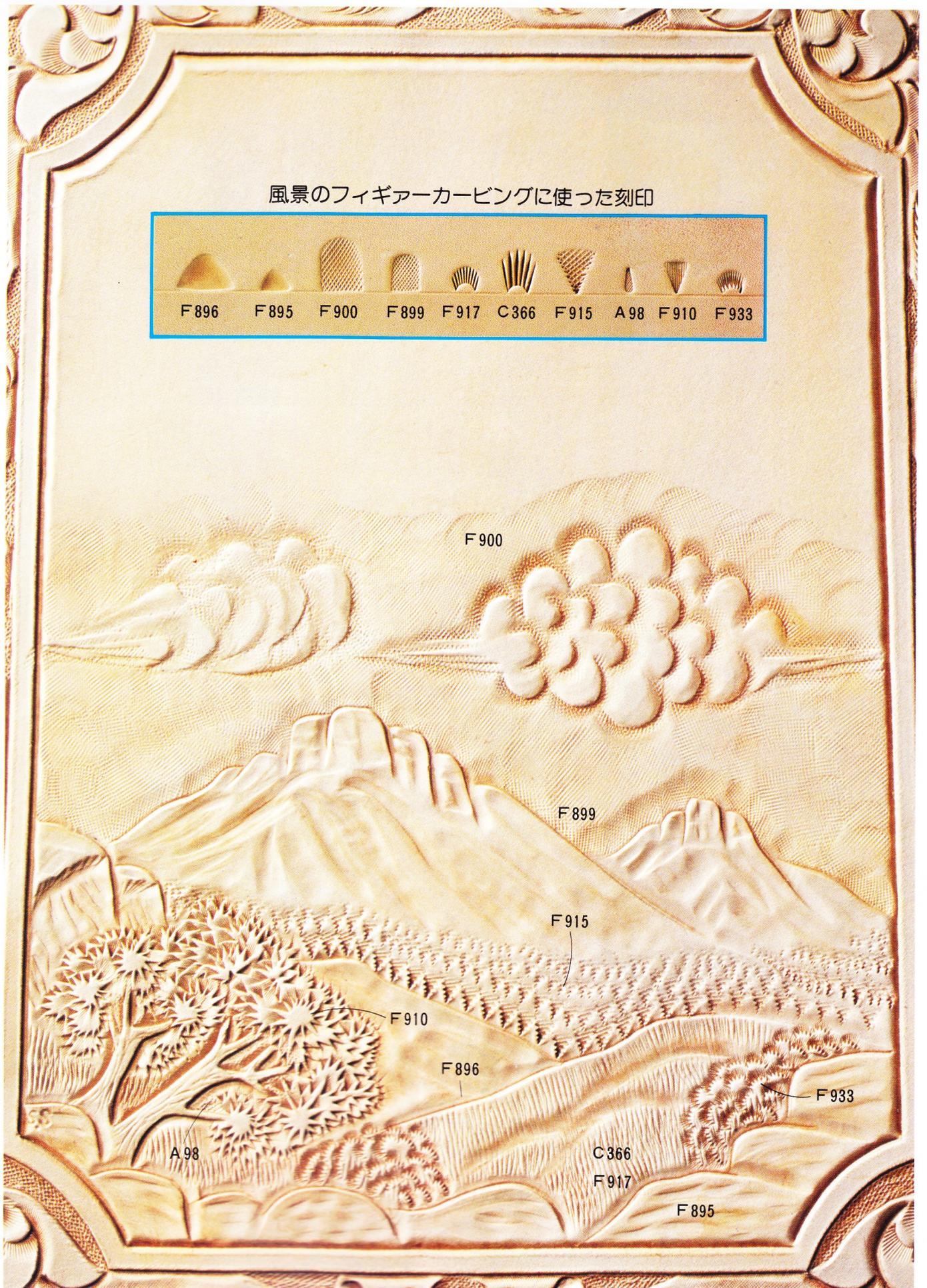
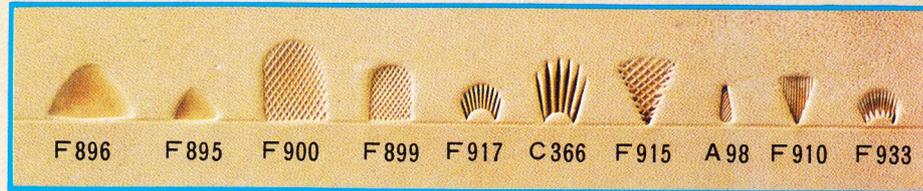
定価： **本体3,714円** +税

グラフ社

G



風景のフィギュアカービングに使った刻印



- 風景のフィギアーカービング
- 1 図案を作り、革に写します。
 - 2 輪郭をカットします。森、葉、草、山や岩の起伏はカットしません。
 - 3 F 896 (大)、F 895 (小) でなめらかな斜角を打ち、輪郭を浮き上がらせます。
 - 4 雲の回りと空を F 900 と F 899 で打ちます。

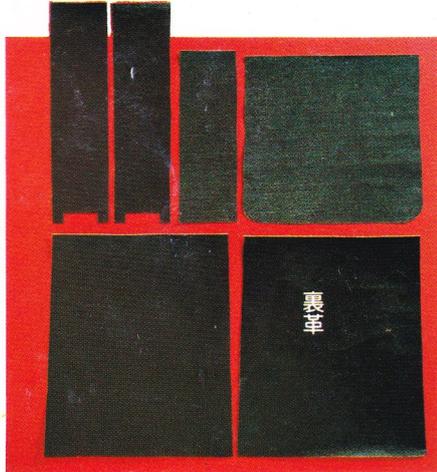
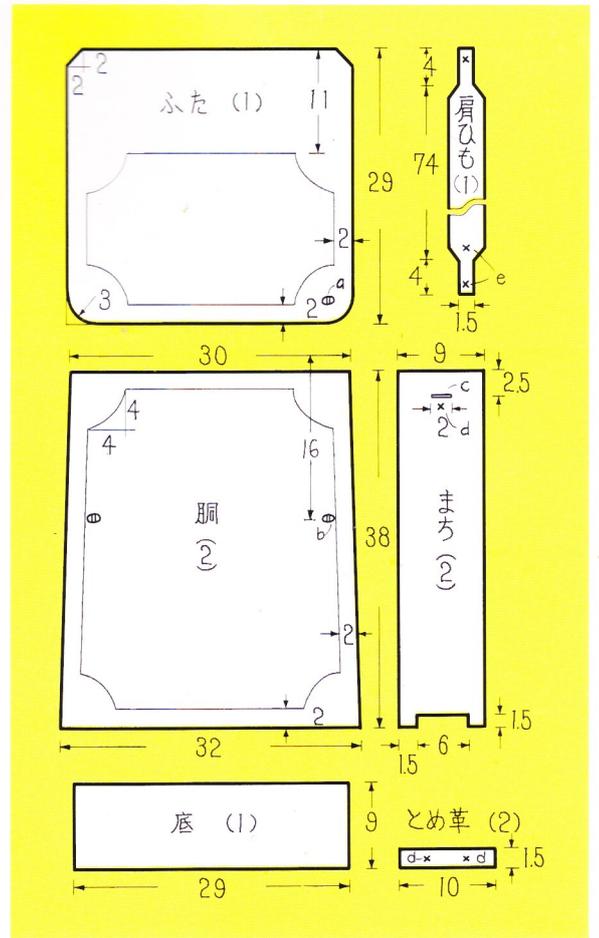


着色後のカービング

唐草の実物大図案 (右半分)

- 5 草原を F 917 と C 366 で軽く打ちます。
- 6 森の木を F 915 で強弱をつけて打ちます。
- 7 木の葉に F 910 を打ち込み、すき間を A 98 で打ちます。灌木は F 933 で打ちます。
- 8 F 896、F 895、モデラで起伏を整えます。

合印●を合わせて上と下の図案をつなぎます



- この作品はミシン縫いで仕立てていますが、この通りに仕立てたい場合は専門家に頼む必要があります。したがってここでは手縫いで仕立てる方法を紹介します。縫い方は42ページを参照してください。手縫い機を使えばより簡単です。
- 材料** / 渋牛2mm こげ茶豚(裏) ひねり二個 リング二個 ナスカン二個 飾りカシメ四個 接着剤 トコカラー レザー染料(茶) アンティックフィニッシュ(ダークブラウン) リキテックス(茶、こげ茶、青、黄、白) リソレイン 手縫い用ロウ引き糸 ゴムのり
- 道具** / 基礎の道具 染色の道具 革包丁 へりおとし へりミガキ 革スキ ガラス板 ハトメ抜き 飾りカシメ打ち ステッチンググルーパー 一本ひし目打ち 六本ひし目打ち V字溝切り 革用手縫い針二本(または手縫い機)
- 作り方**
- 1 型紙を作ります。ふたと胴は幅が少し広がっているので注意します。
 - 2 表革と裏革を粗裁ちします。
 - 3 肩ひもととめ革を本裁ちし、へりおとしで切り口の角を落としておきます。
 - 4 図案を革に写し、カービングします。
 - 5 染色をします。まず、レザー染料の茶をうすめて全体を地染めします。次に、フィギアーカービングの部分以外をアンティック染めをしますが、カービングしていない部分にもアンティックフィニッシュを塗り、全体を同じ色にします。フィギアの部分はリキテックスで絵を描くように着色します。
 - 6 肩ひもの裏にトコカラーを塗り、ヘラとへりミガキでみがいて乾かします。
 - 7 全体にリソレインを塗って仕上げます。

ウエスタン
バッグ

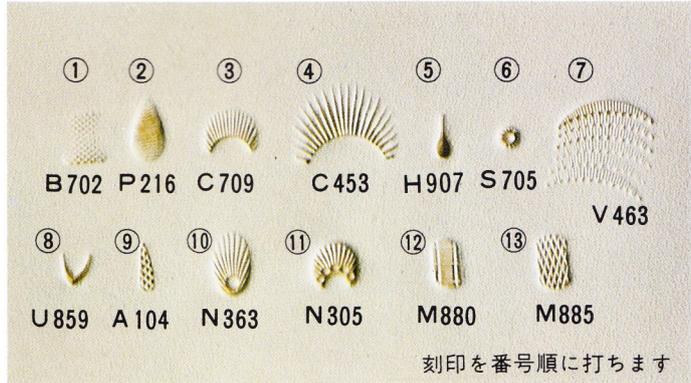
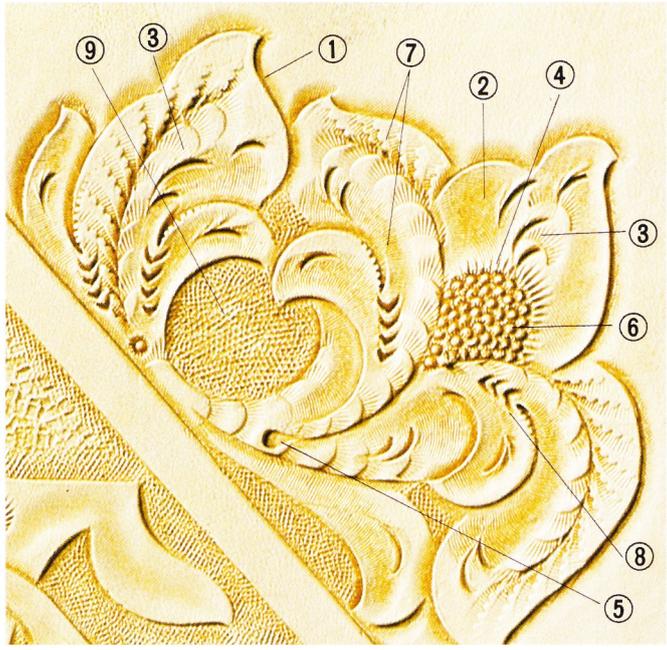


実物大図案



カービング

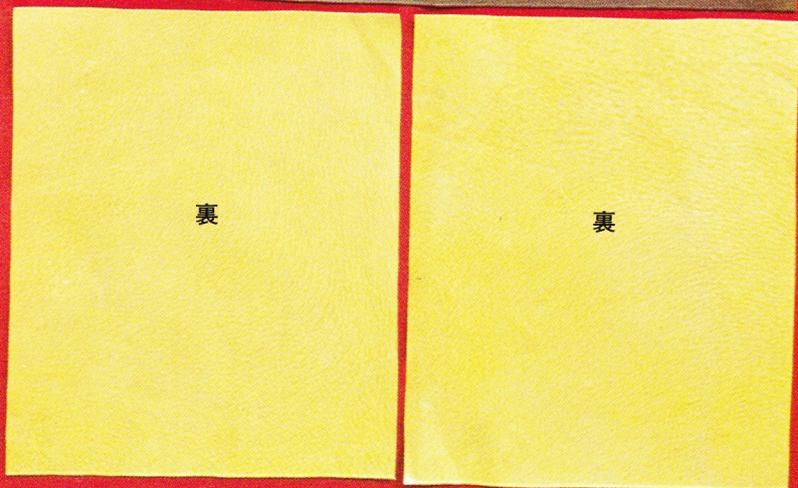
- 1 図案を革に写します。
- 2 カットをします。図の点線部分はカットをせずにそのままにしておきます。
- 3 カット線にそって全体を①B 702で斜角を打ちます。
- 4 唐草の陰影を②P 216で打ちます。
- 5 葉、茎、花びらに③C 709を打ちます。
- 6 花芯の回りに④C 453を打ちます。
- 7 カット線の止めと花のつけ根に⑤H 907を打ちます。
- 8 花芯、花の下、葉脈の下に⑥S 705を打ちます。
- 9 葉脈と、花びらと葉の止めを⑦V 463で打ちます。
- 10 鳥のボディと羽全体に⑦V 463を軽く連打します。
- 11 止めの後に流れに合わせ⑧U 859を打ちます。
- 12 回りの唐草のバックグラウンドを⑨A 104で打ちます。
- 13 つぼみの花芯を⑩N 363で打ちます。
- 14 花下に⑪N 305を打ちます。
- 15 中央のバックグラウンドを⑫M 880、⑬M 885でつぶします。
- 16 デコレーションカットを入れます。
- 17 鳥の羽、頭、足になめらかなくぼみをモデラでつけ、立体感を出します。
- 18 目をモデラで描きます。



手縫い仕立ての、便利な手下げバッグです。中に入れた本などに合わせて大きさを決めましょう。

材料 渋牛1.6mm クローム革(まち) アメ豚(裏) 床革2.5mm(しん) ゴムのり 手縫い用口ウ引き糸 接着剤 トコカラ ー アルコール染料(茶、黄) エッジエナメル バインダー レザーラッカー 道具/基礎の道具 染色の道具 NTカッター ヘリオとし ヘラ付ヘリミガキ ステッチンググルーパー 一本ひし目打

材料



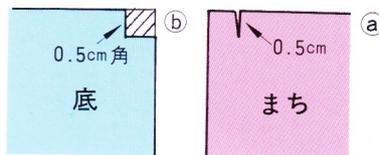
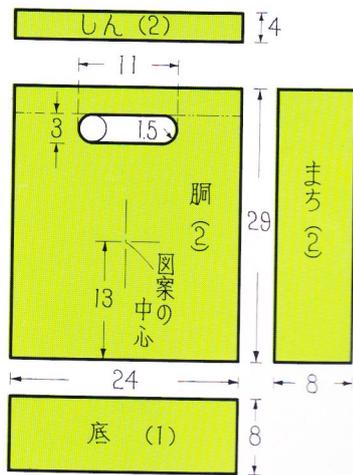
ち 6mm間隔の四本ひし目打ち 革用手縫い針二本(または手縫い機) ガラス板

作り方

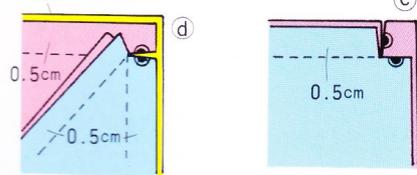
- ① 胴の表革と裏革を粗裁ちします。
- ② 革に図案を写し、カーペンタをします。
- ③ バックグラウンドの部分に色をさします。
- ④ 表革の裏の上部(手で持つ部分)に床革のしんを接着剤ではりつけてしっかりさせます。
- ⑤ 表革と裏革の裏の両面にゴムのりを塗り、表面が乾いてからガラス板で裏革を

- ならしながらはり合わせます。
- ⑥ 胴を本裁ちし、穴を切り抜きます。
- ⑦ ヘリの始末をします。入れ口と穴はヘリの両面、縫う部分はヘリの表側の角を落とすし、トコカラを塗ってヘリミガキでみがいて乾かします。
- ⑧ 全体にバインダーを下塗りし、乾いたらレザーラッカーを仕上げます。
- ⑨ まちと底を本裁ちします。写真のように革の長さが充分にない場合は、底の中央を接着剤でつなぎ合わせます。

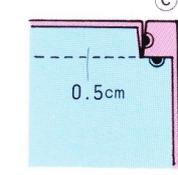
まちと底と胴の縫い合わせ方



まちに切り込みを入れ、底の角を裁ち落とします



直角に開き、胴と接着して縫い合わせます



底とまちを接着してから、縫い合わせます

- ⑩ 胴のヘリの5mm内側にステッチンググルーパーで溝を切ります。
- ⑪ ロウ引き糸の両端に針をつけ、図の要領で、まず底の角を裁ち落とし(b)、まちに切り込みを入れておきます(a)。縫いしろはあらかじめ接着剤ではり合わせておき、四本ひし目打ちと、一本ひし目打ちで6mm間隔に縫い穴をあけます。縫い方は42ページを参照し、まちと底を縫ってから(c)、胴と縫い合わせます(d)。
- ⑫ ヘリにエッジエナメルを塗ります。

ボックスバッグ

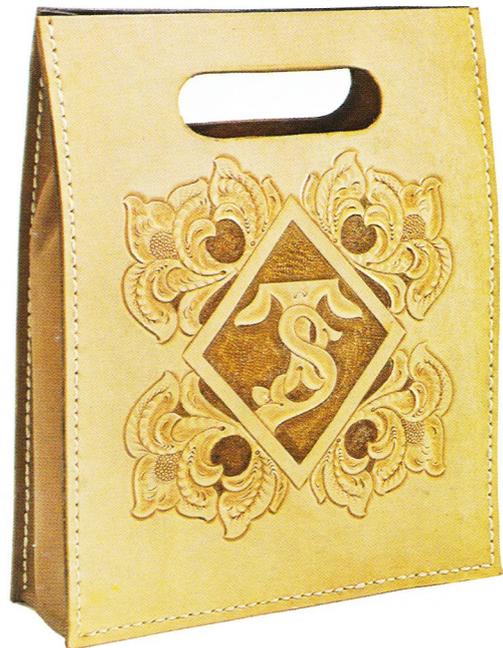
前側



この作品はクラフト社でセット販売されています



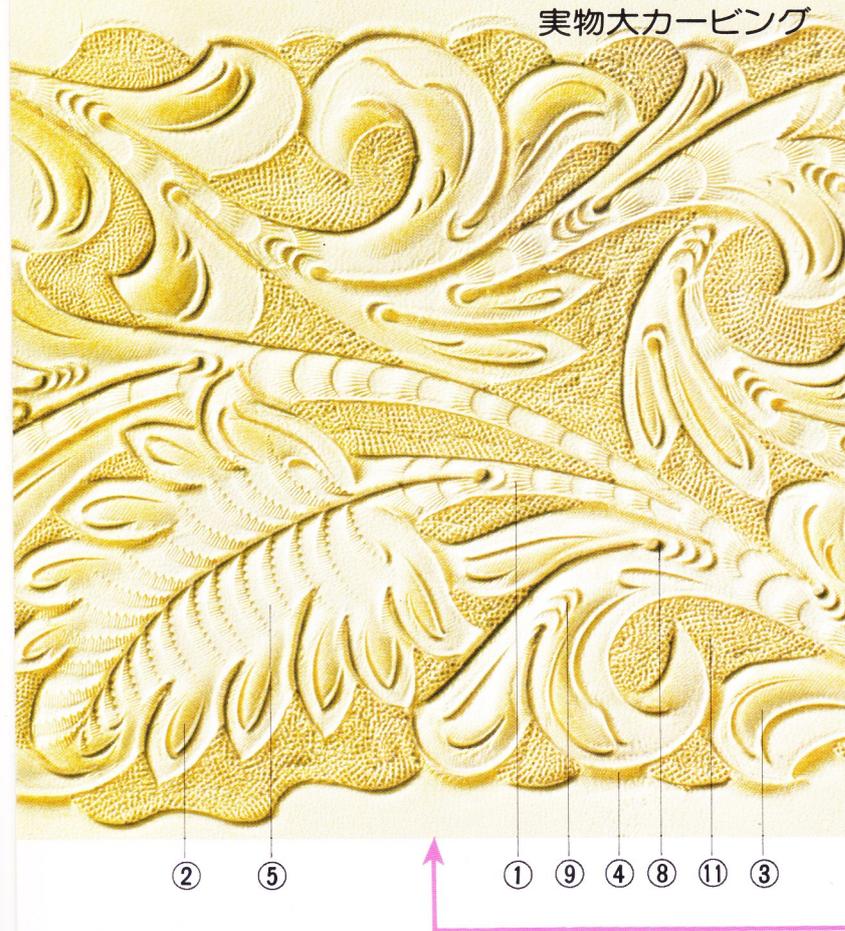
後ろ側



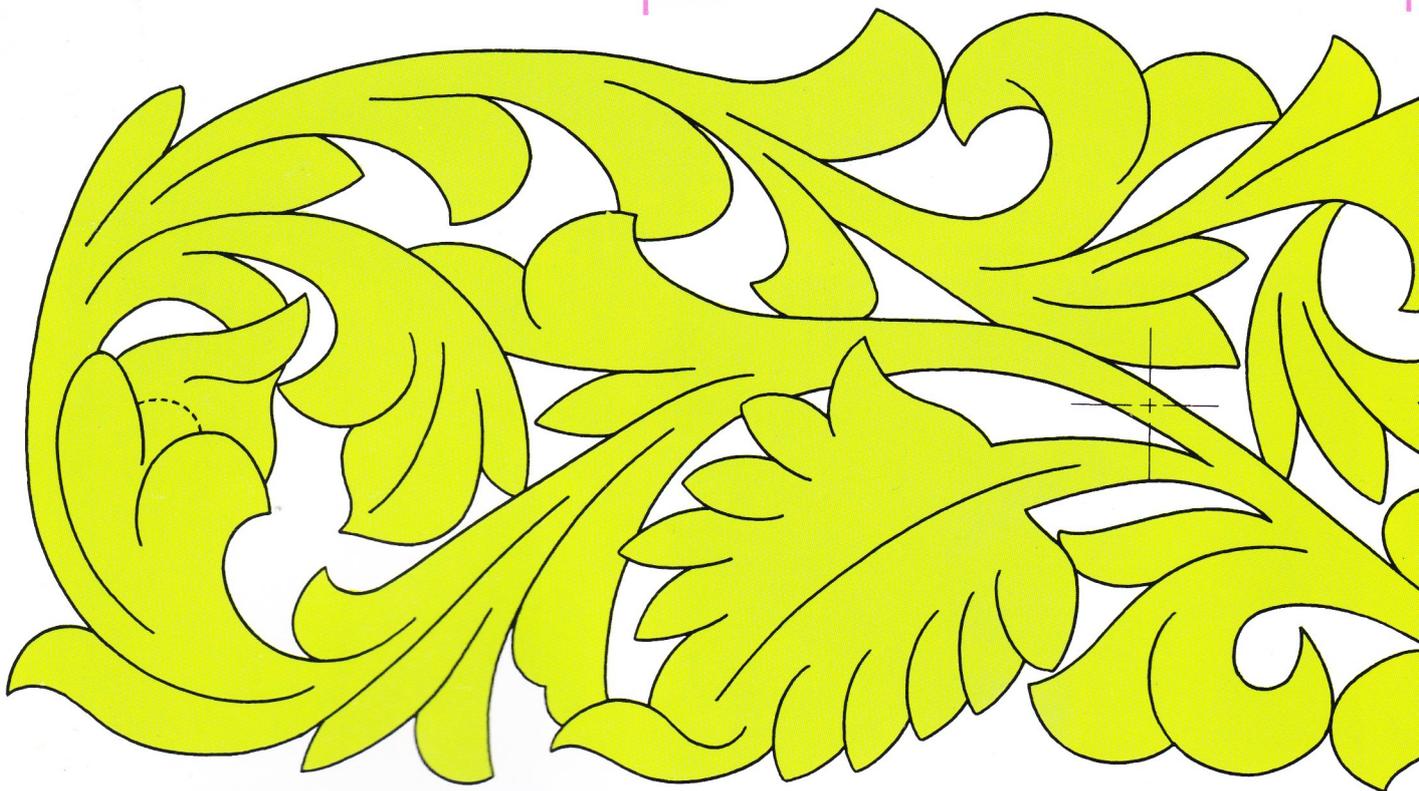
唐草の刻印を番号順に打ちます

- ① C 431 ② P 213 ③ P 232 ④ B 198 ⑤ V 463 ⑥ C 453
⑦ S 705 ⑧ H 907 ⑨ U 859 ⑩ N 363 ⑪ A 104

実物大カービング

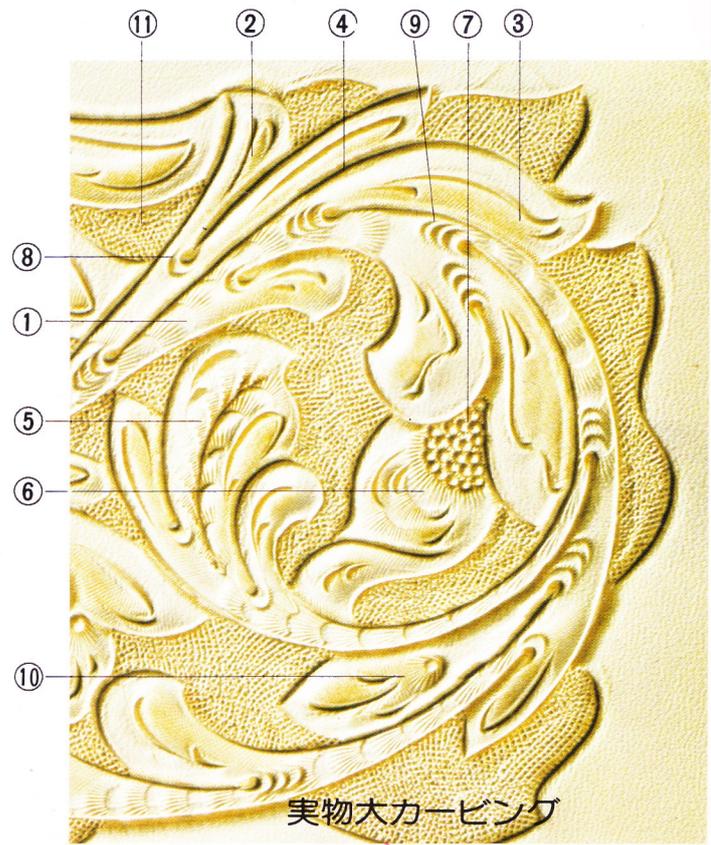
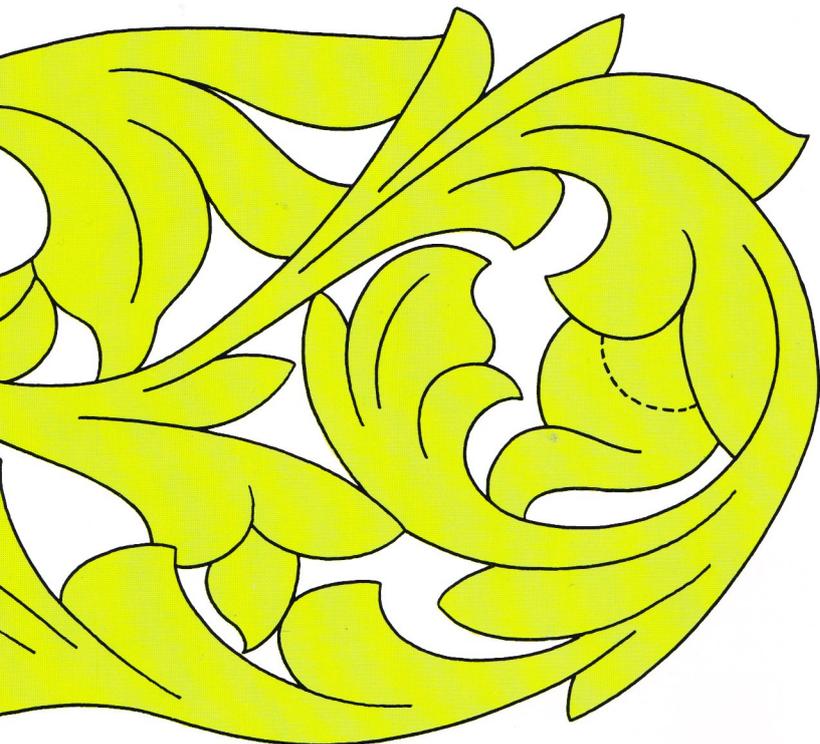


カービング/馬のフィギュアカービング
は134~137ページの基礎を参照します。
唐草カービングは基礎通り行ないます。





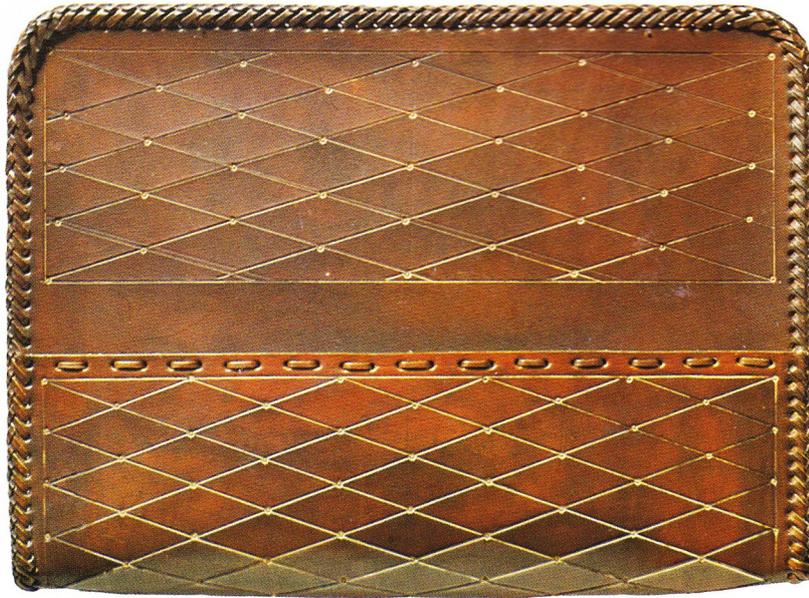
実物大図案



側面



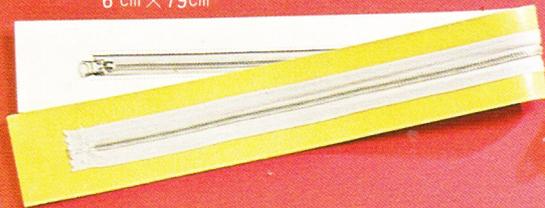
後ろ側



後ろの模様
いきなりカットしないで、まず印つけをします。へりの1.5cm内側に枠をつけ、定規を斜めに当てて平行移動させ、対角線が2cmと6cmのひし形を描きます。スーベルカーターで線上に浅く切り込みを入れ、交差点にS705の刻印を打ちます。

材 料

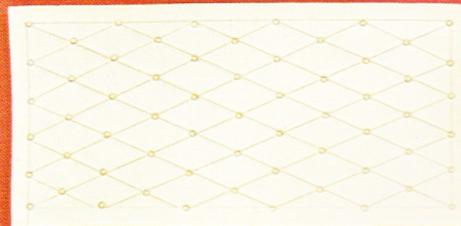
6 cm × 79 cm



16cm × 33cm



25cm × 33cm



16cm × 33cm

- ① 本体の三枚の革を2cmずつ重ねて接着し、1.2cm間隔にハトメ穴をあけて、ランニングステッチでかがり合わせます。
- ② まちを本体に合わせて裁ち直します。
- ③ かがりしろのへりの内側5mmにすじをつけ、三連ハトメ抜きとハトメ抜きを使って6mm間隔にかがり穴をあけます。
- ④ 3mm幅の革レースで、本体とまちをダブルステッチでかがります。

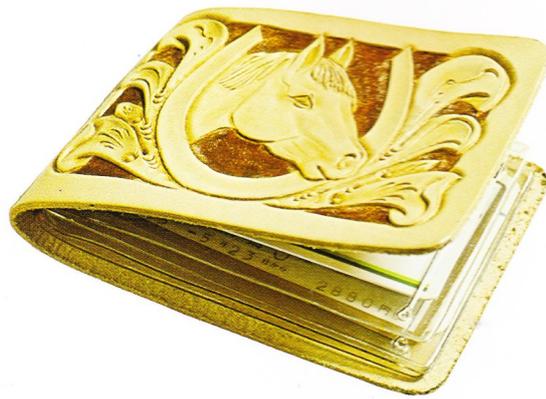


カレッジ ケース

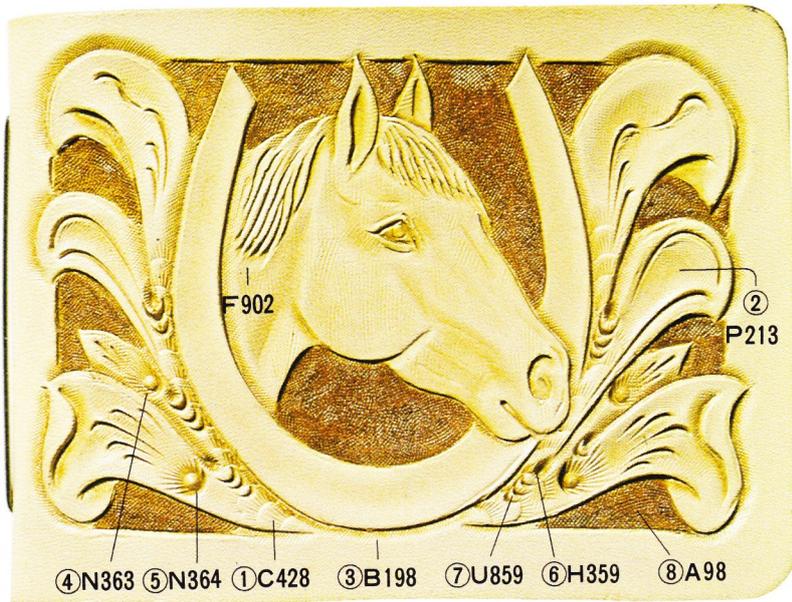
この作品はクラフト社でセット販売されています

- 材料**／渋牛 2 mm アメ豚(裏) 幅 3 mm の革 レース 13 m 幅 2 mm の革 レース 3 m 65 cm のファスナー ゴムのり 接着剤 トコカラー WA染料(こげ茶) リキテックス(茶、黒、白、青、黄) バインダー レザーラッカー
- 道具**／基礎の道具 染色の道具 NTカッター ガラス板 ヘリおとし ヘリミガキ 三連ハトメ抜き ハトメ抜き レース針 革スキ
- 作り方**／この作品はセットを使用しましたが、セットを使わない場合の作り方を説明します。したがってファスナーは手縫いでつけるか、10のようにつけます。
- 1 表革と裏革を粗裁ちします。
 - 2 革に図案を写し、カービングをします。
 - 3 革レースを本体と同じこげ茶の染料液に浸すか、ハケで塗って染めます。
 - 4 本体を染色します。唐草の部分はふき染めします。フィギアの部分はリキテックスで絵を描くように着色します。
 - 5 全体にバインダーを下塗りし、乾いたらレザーラッカーを塗って仕上げます。
 - 6 まち全体を専門店にてベタすきしてもらおうか、自分でかがりしろを革すきします。
 - 7 表革と裏革の裏の両面にゴムのりを塗り、表面が乾いてからガラス板で裏革をならしながらはり合わせます。
 - 8 本裁ちをします。角のカーブを半径 3 cm の円にし、他は定規を使って直線裁ちをします。まちはファスナーつけの窓を切り抜き、長めに切っておきます。
 - 9 かがる部分以外のヘリの表側の角を落とし、トコカラーを塗ってみます。
 - 10 ファスナーを接着剤で固定し、ヘリの 5 mm 内側に 1 cm と 1.5 cm 間隔にハトメ穴をあけ、2 mm 幅の革レースを使ってランニングステッチで止めます。

この作品はクラフト社のニューパス入れのセットを使用しました

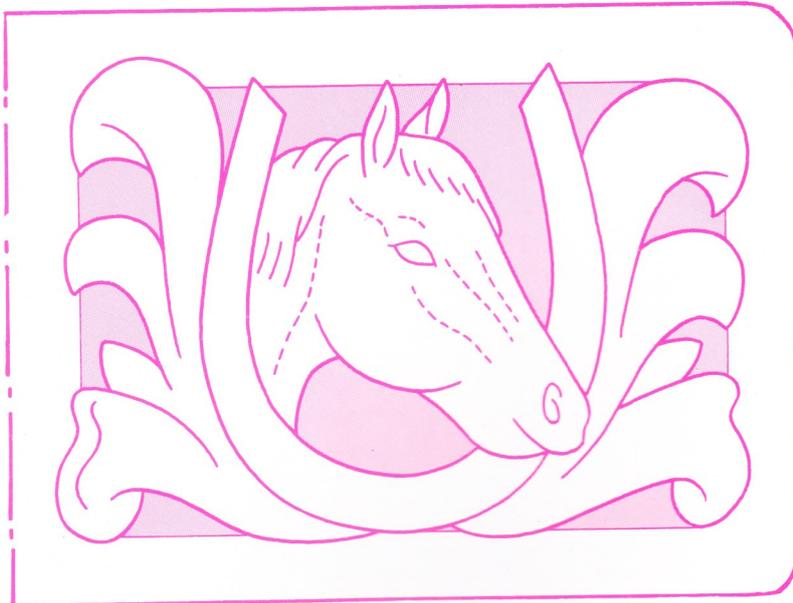


入
パ
れ
ス



▼実物大図案

▲実物大カービング

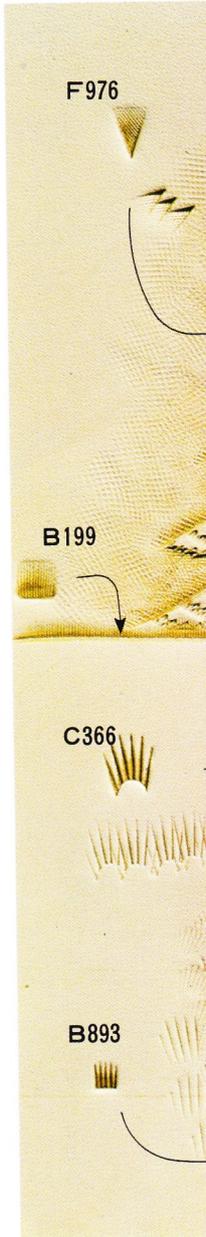


フイギアーカービングの作品

作り方／へりおとし、トコカラー、ヘラ付
へりミガキで、へりと裏の始末をします。
バックグラウンドに色をさし、バインダー
とレザラッドカードで仕上げをします。

唐草は基礎通りにカービングします。
まず、草に図案を写してカットをします。
次に、刻印を①〜⑧の番号順に打ち、最
後に、デコレーションカットを入れます。

馬のカービング
1 図の実線部分をカットし、輪郭の斜角
を唐草と同様に、B198で連打します。
2 筋肉のふくらみの影(点線)や、目、耳、
鼻の穴の斜角をF891で打ちます。
3 たてがみの毛にF902を打ち込みます。
4 モデラで筋肉のふくらみをなめらかに
整え、馬蹄に陰影をつけます。
5 ヘアブレード8021Mですじを入れます。



157ページのフィギュアカービングの部分です

木と草

フィギュアカービング

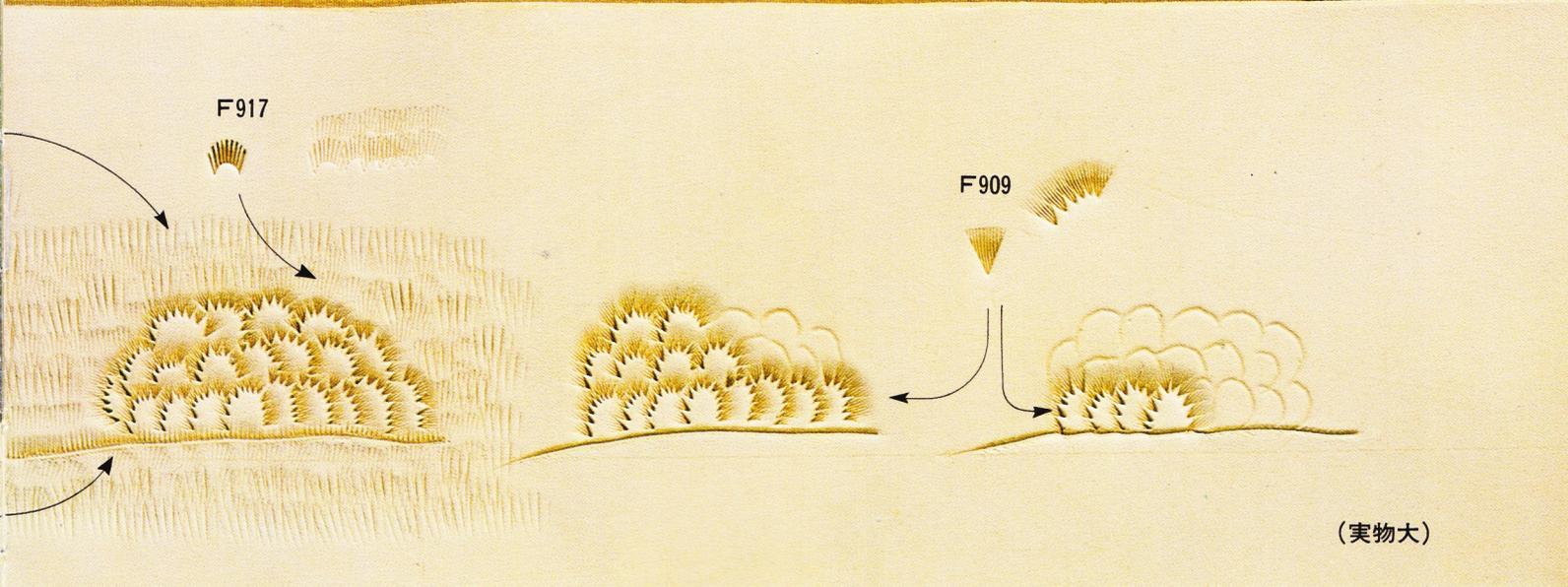
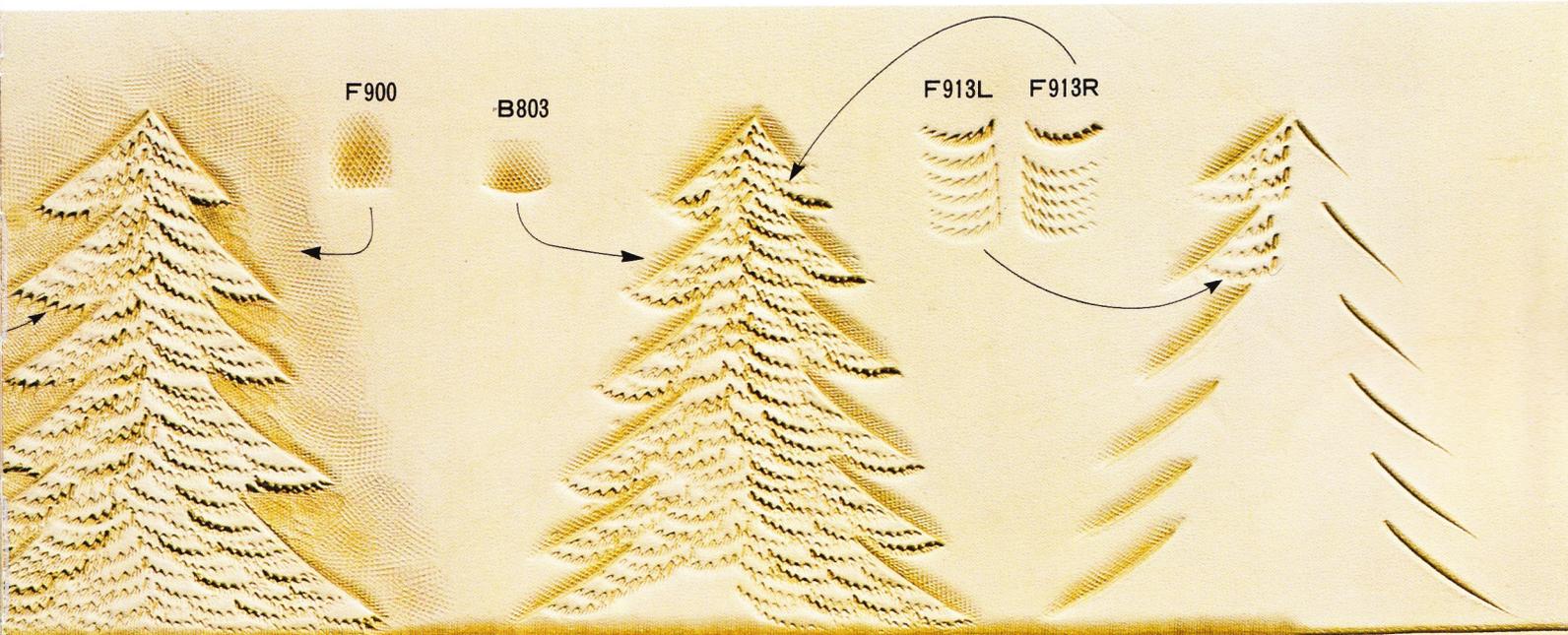


フィギュアカービングで描かれる風景は、カウボーイやインディアンが出てきそうな、西部の荒野が中心です。ゴツゴツとした山や岩肌の起伏はF 895、896、899やモデラで斜角や影をつけて表現し、木や草は刻印でくつきりと打ち出します。

木／ハの字にカットを入れ、B 803で斜角をつけます。木の葉の右半分をF 913 Rで、左半部分をF 913 Lで打ちます。背景をF 900でつぶしてから、葉の切れ込みをF 976で打ちます。

灌木／カットをせずにF 909を円を描くように打ちます。

草／C 366とF 917を少しずつ重ねながら軽く全体に打ちます。

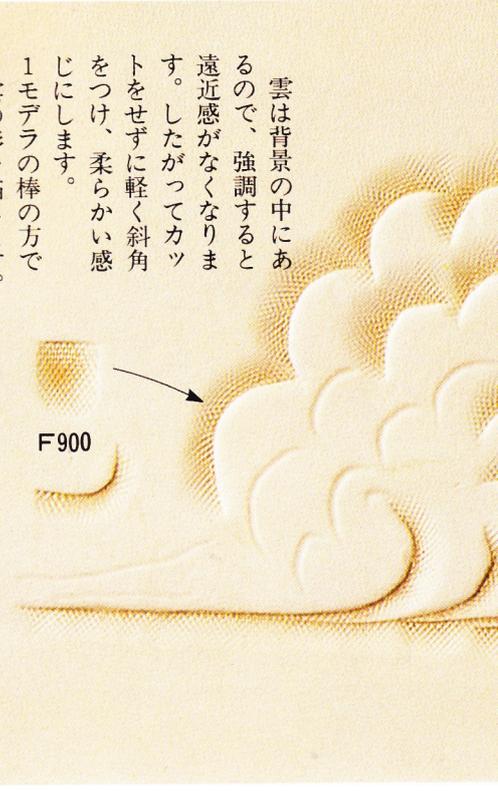
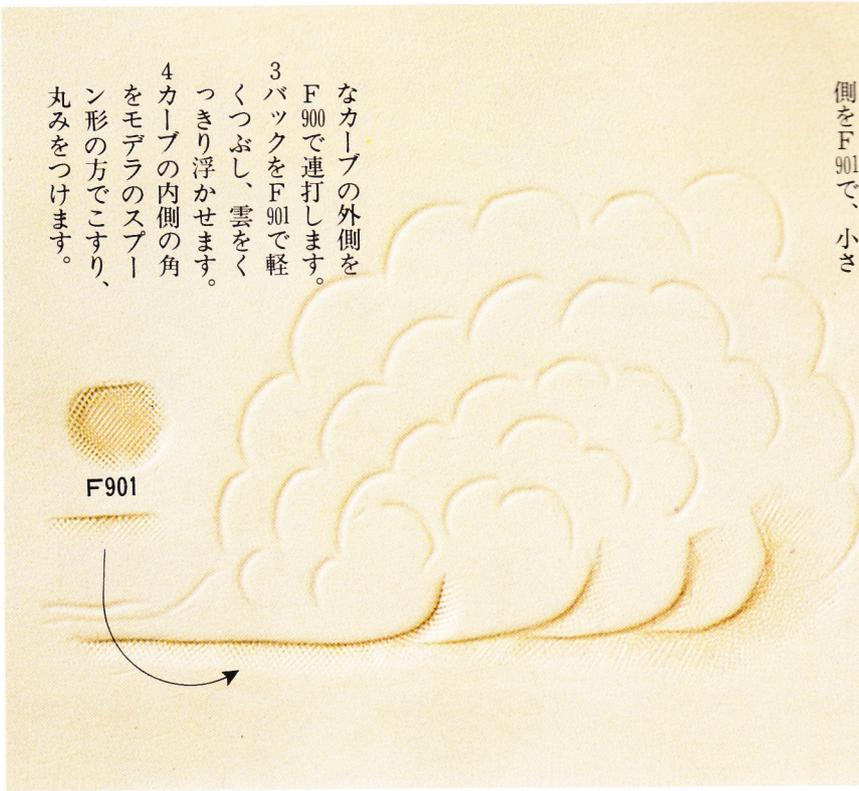


(実物大)

雲は背景の中にあるので、強調すると遠近感がなくなりま
す。したがってカッ
トをせずに軽く斜角
をつけ、柔らかい感
じにします。

1 モデラの棒の方で
雲の形を描きます。
2 大きなカーブの外
側をF901で、小さ

なカーブの外側を
F900で連打します。
3 バックをF901で軽
くつぶし、雲をく
つきり浮かせます。
4 カーブの内側の角
をモデラのスピー
ン形の方でこすり、
丸みをつけます。

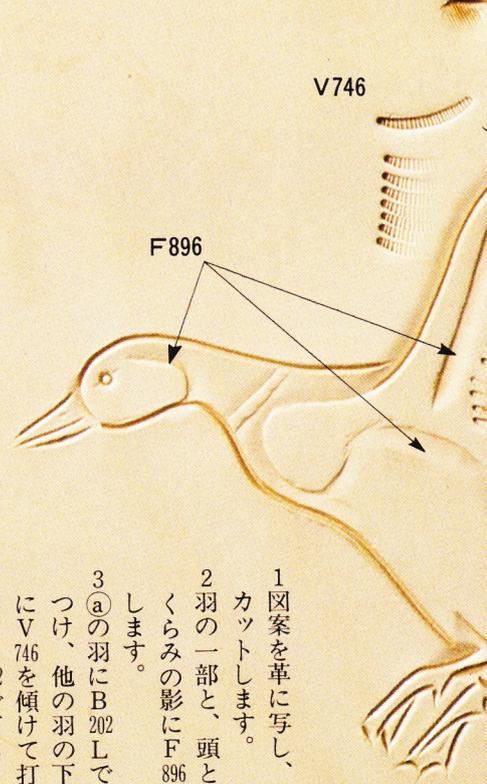


B202L

V746

F896

F896



1 図案を革に写し、輪郭を
カットします。
2 羽の一部と、頭と胴のふ
くらみの影にF896を連打
します。
3 ①の羽にB202Lで斜角を
つけ、他の羽の下側と②
にV746を傾けて打ちます。
4 目をS932で打ちます。
5 胴全体にV409を軽く打ち、
背にU849を打ちます。
6 くちばし、足、羽の細かい
斜角をF891で連打します。

7 バックをF901で打ちます。
8 羽の切り込みに、F941と
F976を打ち込みます。
9 モデラで全体の凹凸を整
え、リアルな立体感が出
るように仕上げます。
10 目にすじを入れ、くちば
しに点を入れます。

雲

ファイギア
カービング

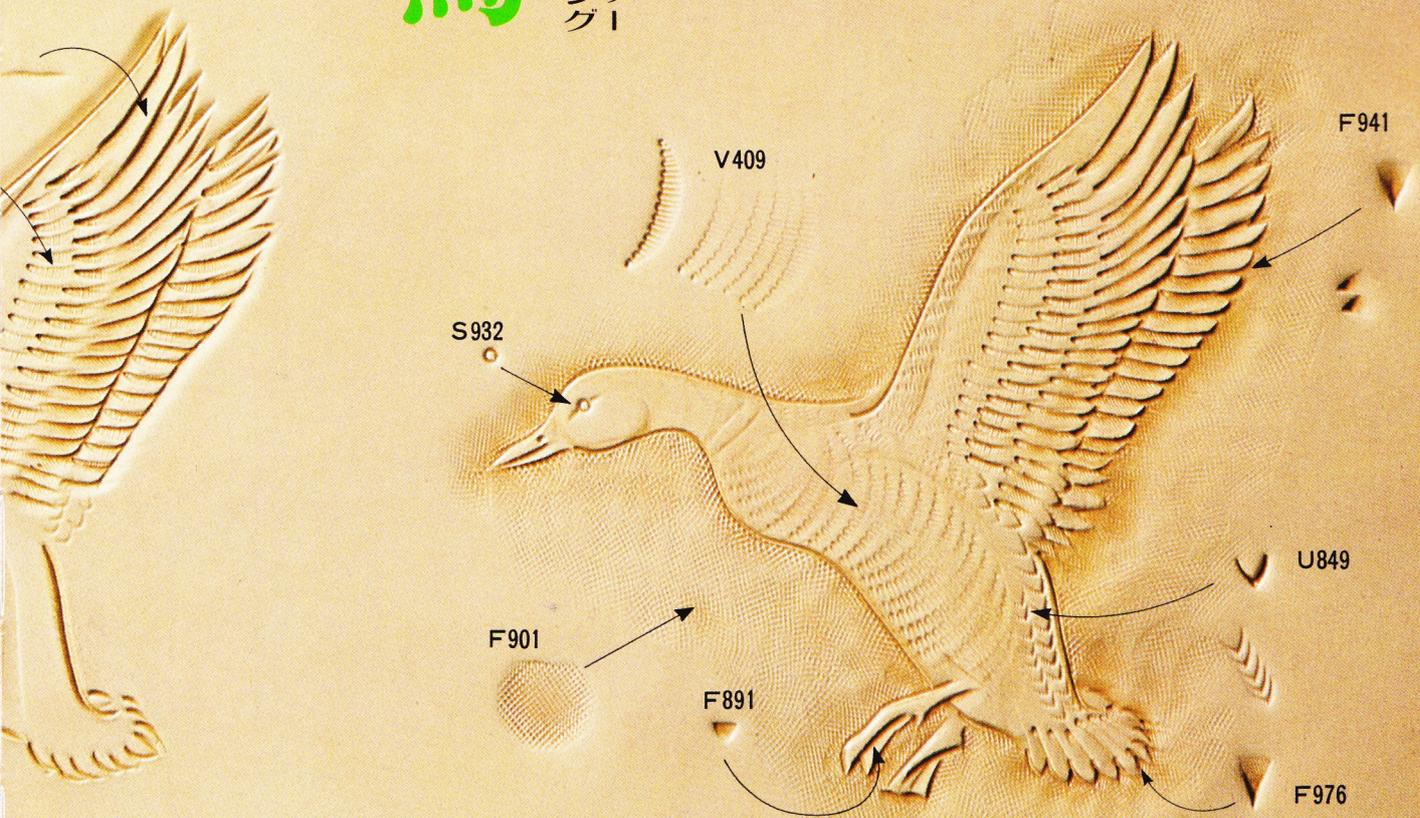


F901

(実物大)

鳥

ファイギア
カービング



F941

V409

S932

F901

F891

U849

F976

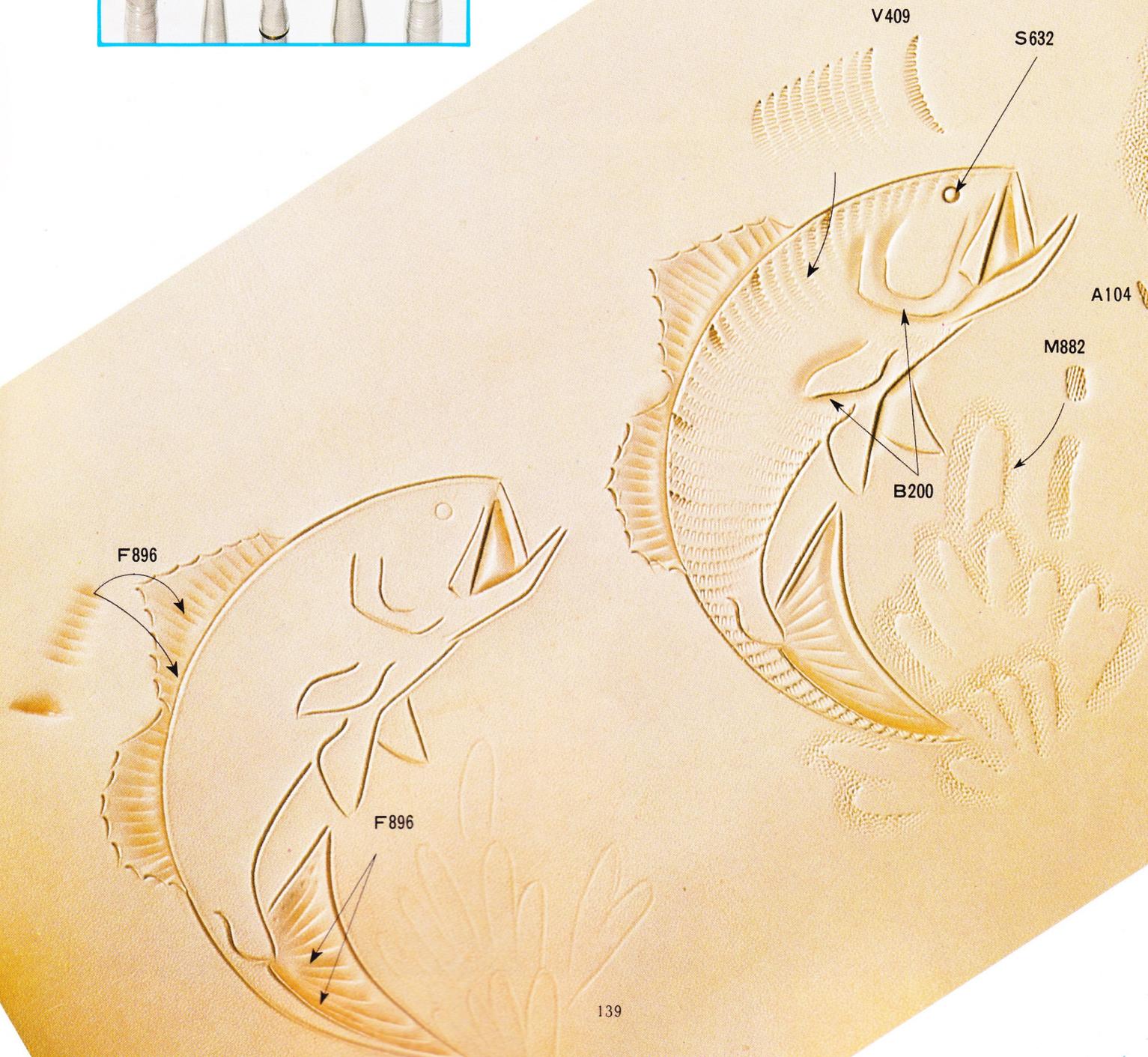
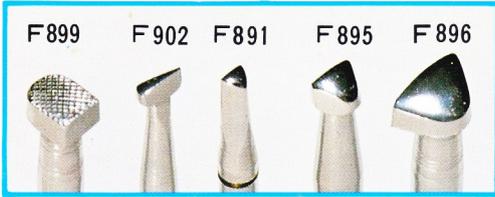
(実物大)

フィギアカービングの道具

唐草のときと同様、スーベルカッター、刻印工具、モデラが必要です。スーベルカッターの刃は細かいカットが多いので、普通の刃の他に8012や斜めの刃を使います。代表的な刻印工具は、ペベラと同様に連打してなめらかな斜角をつける刻印(F 890・891・895・896・897)、広い部分の背景をつぶす刻印(F 901・900・899・898・995)、くさび形に打ち込む刻印(F 902・941・976・910・909)などがあります。ペベラやカモフラージュの刻印も使います。モデラは、細かい部分を最後に整えるのに使います。



上の写真は134～137ページの馬のフィギアカービングに使った道具です

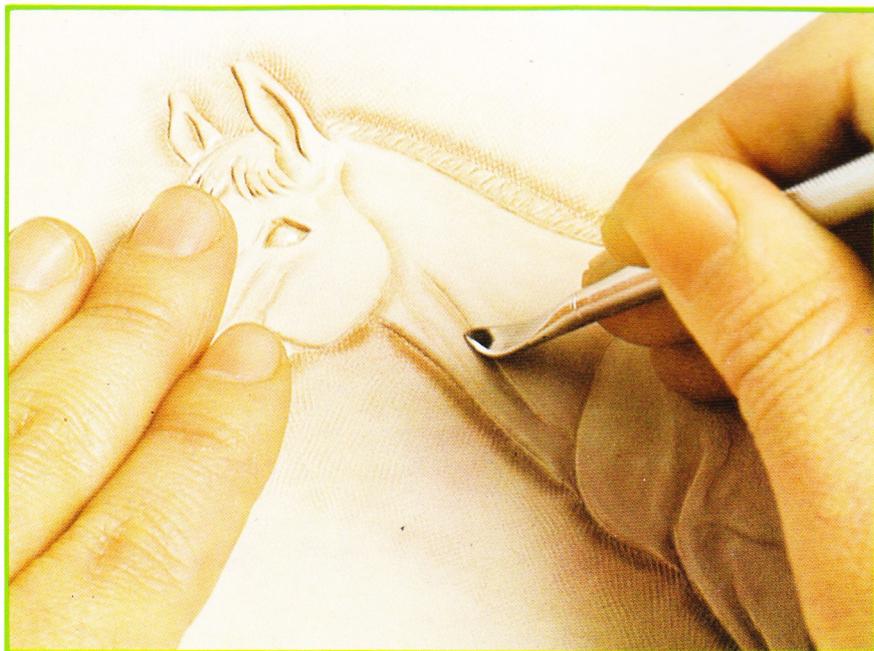




魚

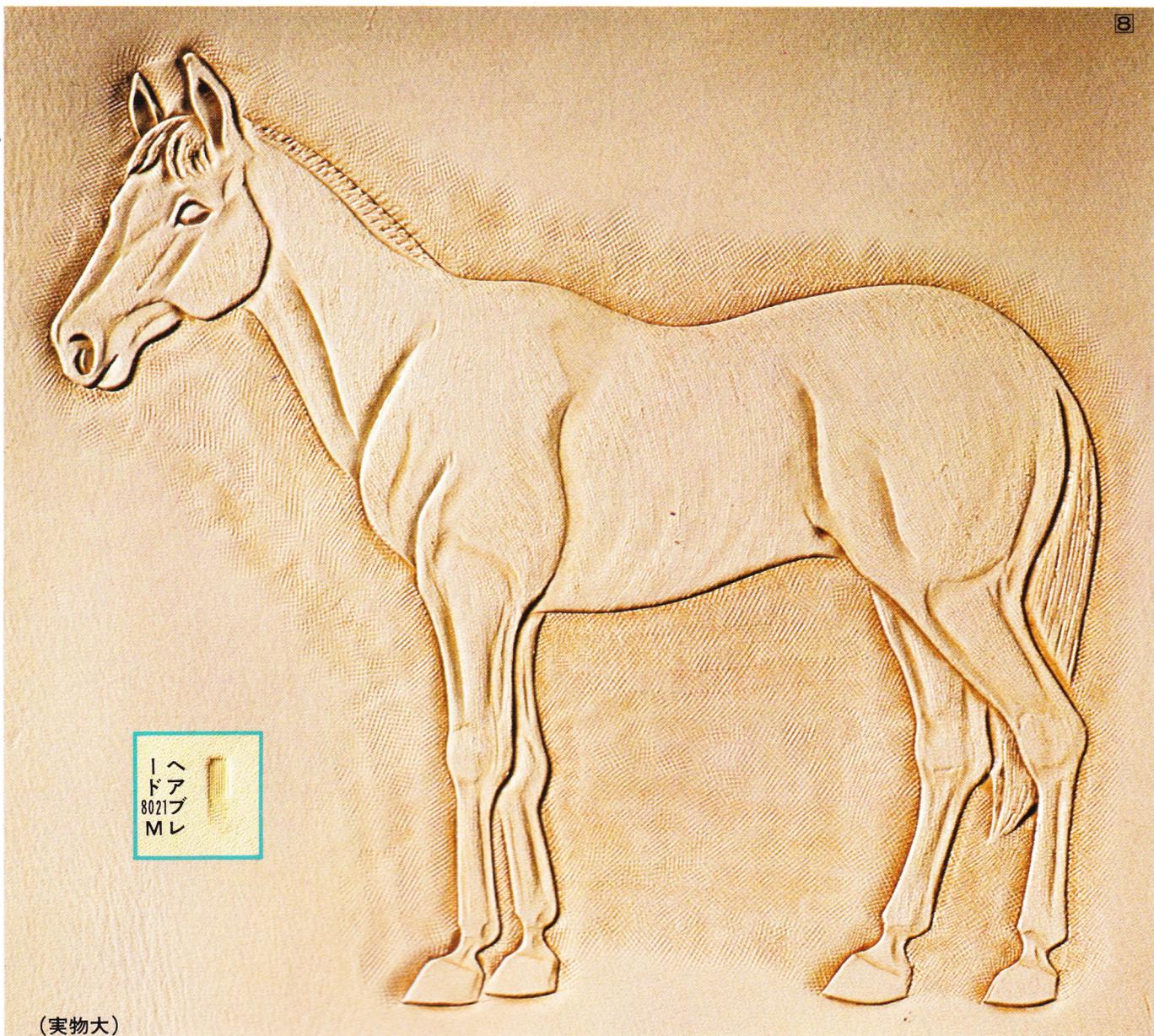
カービング
ファイギング

- 1 図案を革に写します。
- 2 魚の輪郭をカットします。
- 3 口、背びれ、尾びれにF 896またはB 200を連打して斜角をつけます。
- 4 背びれと尾びれにF 896を縦に少しずつずらせて打ち、すじをつけます。
- 5 うろこを胴全体に、背の線と腹の線にそって、V 409を工具を傾けて等間隔に連続に打ちます。背側はとどころ強く打ってアクセントをつけます。
- 6 えら、胸びれ、腹びれ、尾びれの斜角をF 896またはB 200で連打します。
- 7 目をS 632で打ちます。
- 8 モデラの線に従ってM 882を連打し、波を浮き上がらせます。カットを入れて斜角をつけないのは、ソフトに仕上げで、魚を引き立たせるためです。
- 9 バックをつぶします。頭、腹、尾びれの線のきわをA 104で連打し、他の部分はM 882でつぶします。鋭角の部分はA 104やF 976をさし込むように打ちます。
- 10 腹にP 211を連打して陰影をつけます。
- 11 背びれと尾びれに、ヘアブレード 8021 MまたはB 199でひっかくようにしてすじをつけます。
- 12 背びれの斜角をB 60で、尾びれの斜角をB 200で、もう一度くつきり打ち出して輪郭をはつきりさせます。背の外側には斜角をつけず、内側とコントラストをつけて遠近をつけます。
- 13 バックにF 901とM 882を傾けて打ち、でこぼこさせて波の感じを出します。
- 14 モデラで微妙な陰影をつけたり、丸みをつけて全体を整えます。目玉に点を入れます。



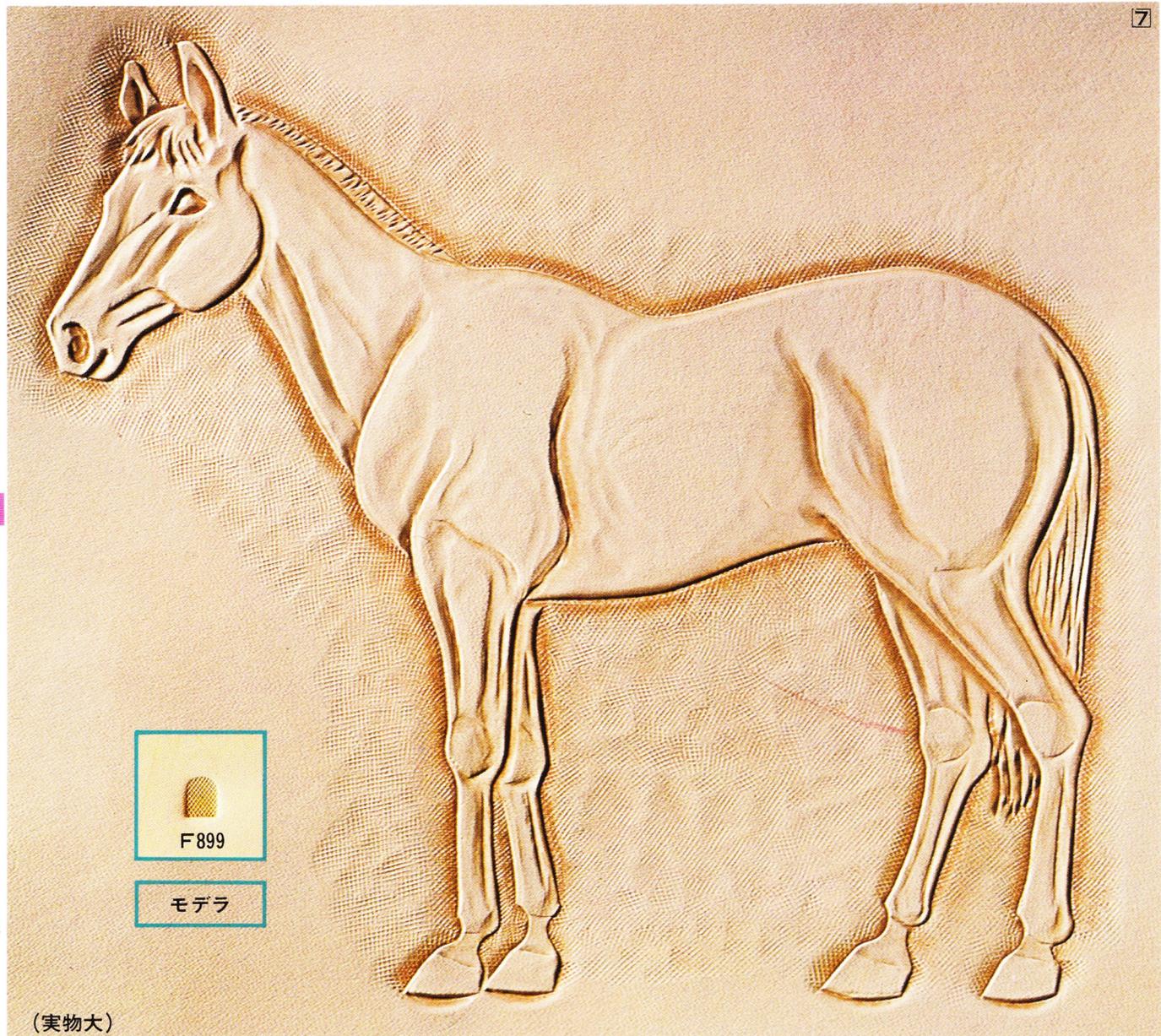
⑤ 鼻の穴や目などのさらに細かい部分の斜角を、F 891で打ちます。
 ⑥ たてがみやしっぽの毛先にF 902をさし込むように打ちます。
 ⑦ 背影をF 899で軽く打ちつぶし、馬をくつきりと浮き上がらせます。モデラを使って、斜角の凹凸や影のくぼみをなめらかにし、さらに筋肉の微妙な影をくぼませて、よりリアルに立体感を出します。
 ⑧ スーベルカッターにヘアブレード 8021 M (すじの入った刃)をとりつけ、馬の毛並みの自然な感じを出すように心がけます。

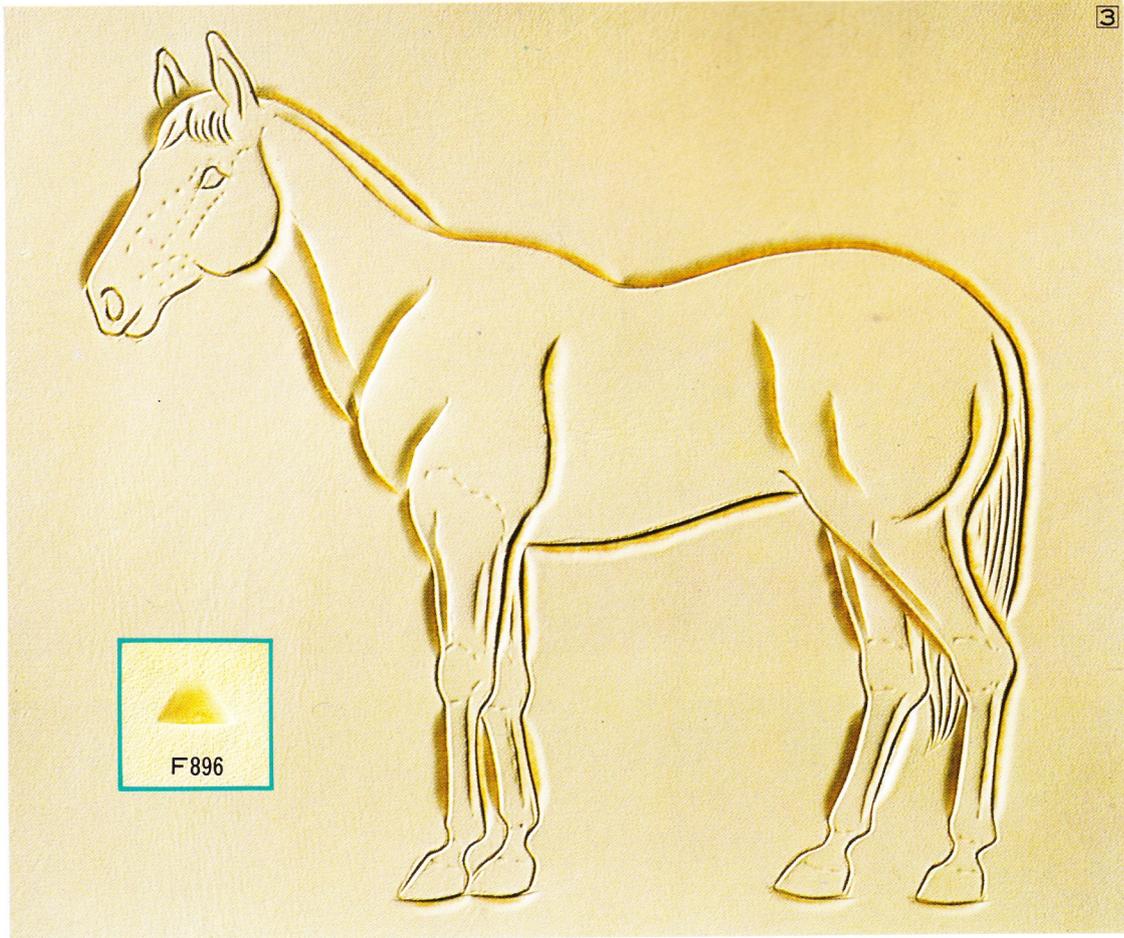
モデラ / フィギュアカービングの細かい部分の仕上げに使用します。形の違うものが数種類あります。



ヘアブレード
8021 M

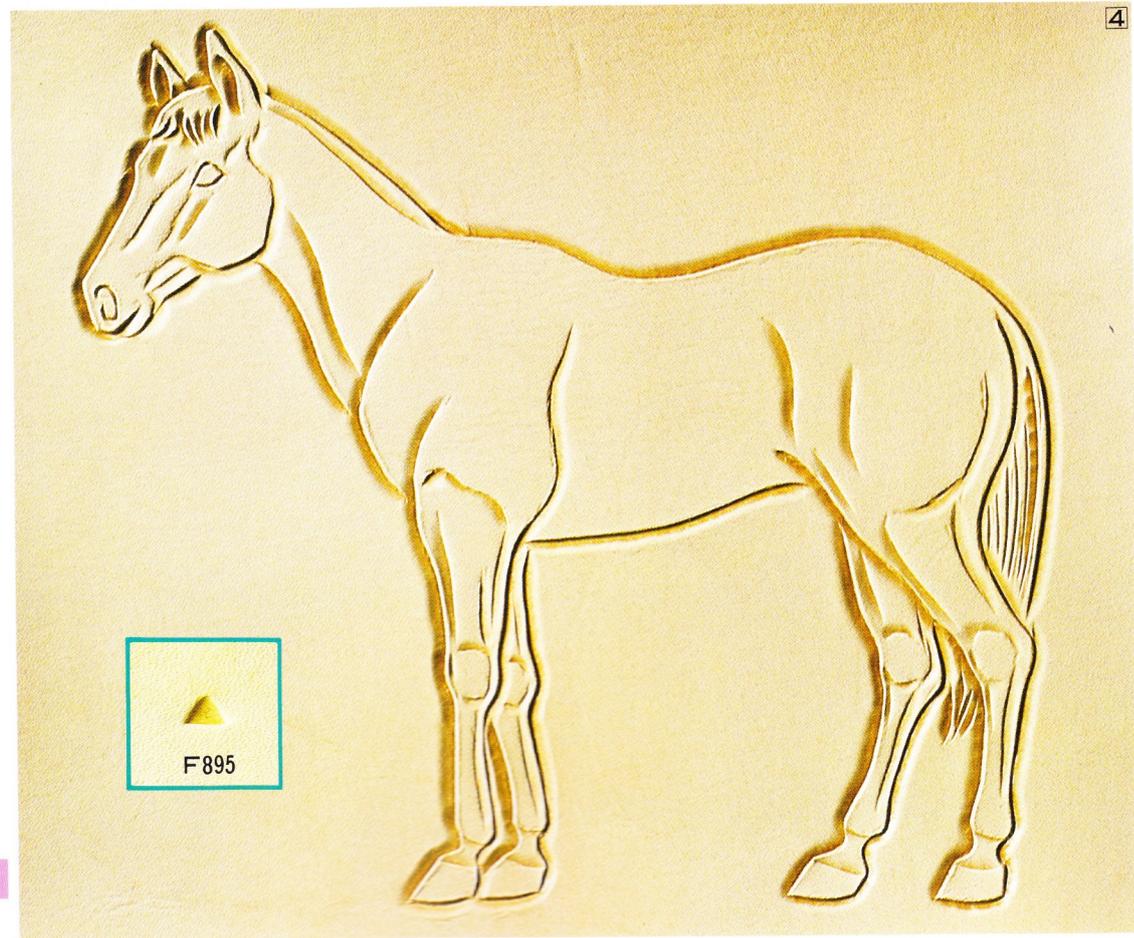
(実物大)





① トレーシングペーパーに図案を描き、湿らせた革に当て、モデラの棒の方で写します。輪郭は実線、影は点線にします。
② スーパーカッターで輪郭をカットします。影の点線はカットをせずにそのまま

にしておきます。目や鼻の細かいカットで普通のスーパーカッターの刃(801)では切りにくい場合に、8012の刃を使います。ファイギアのカットは唐草と比べて、刻印で消したりごまかすことができないの



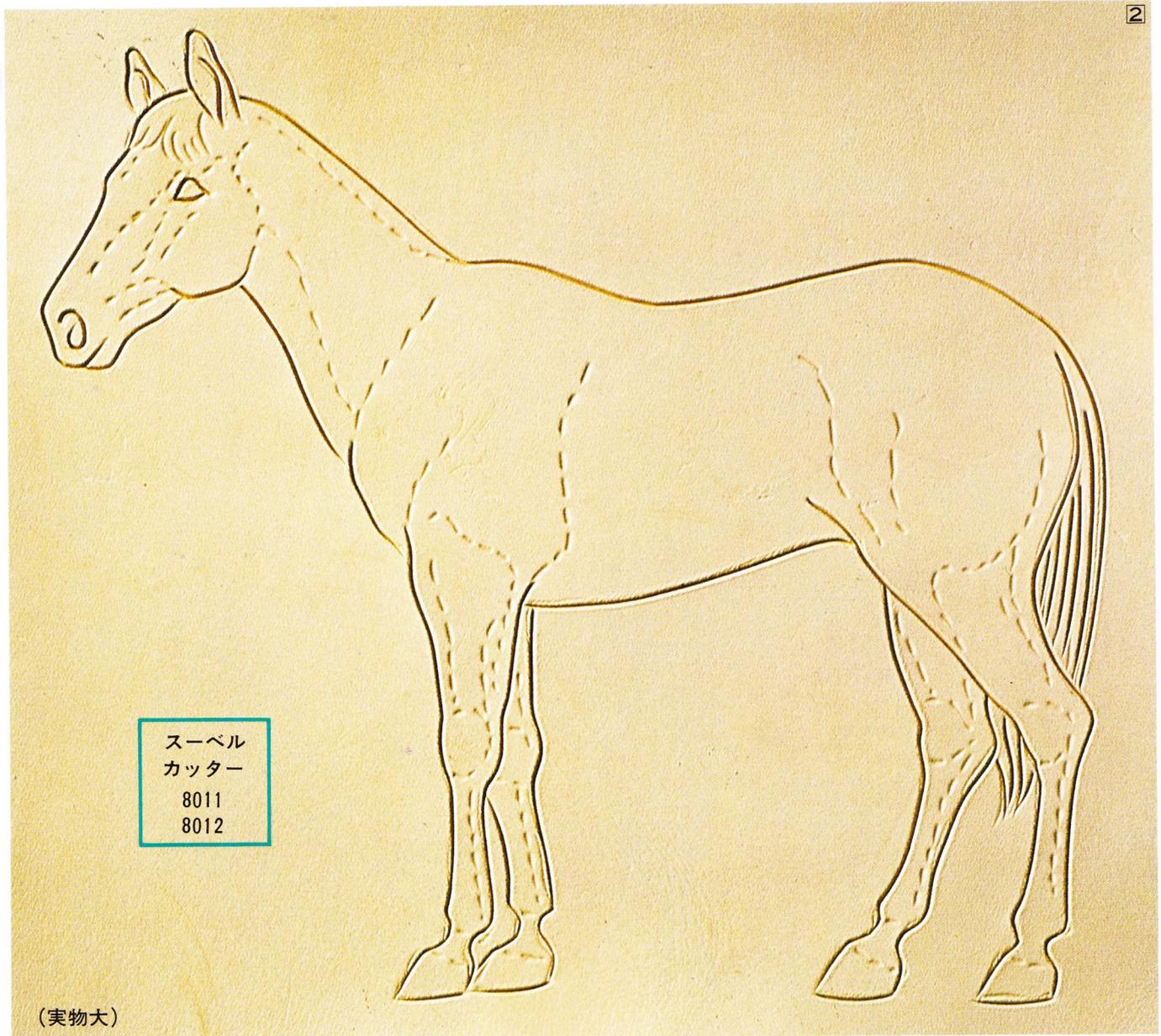
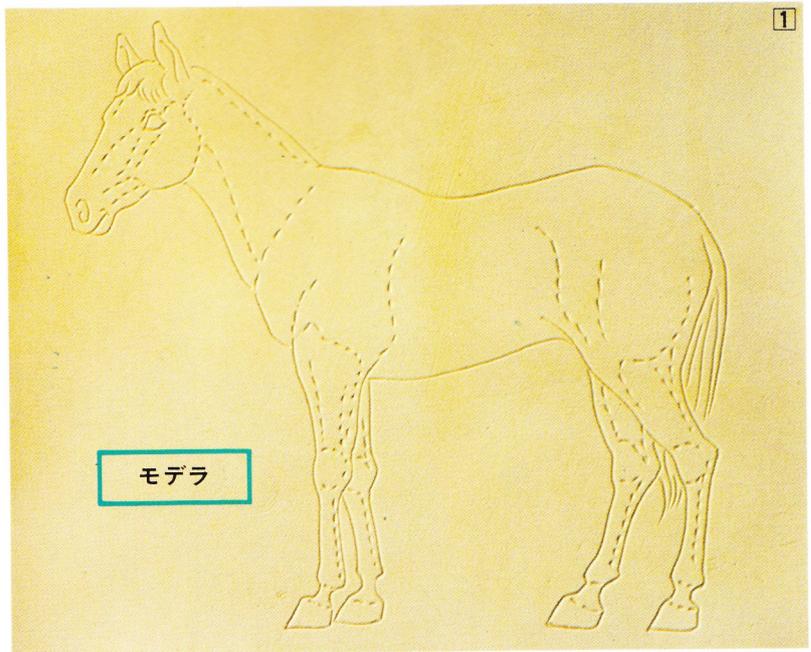
で、カット線が交差したり、トレースの線からはずれたりしないよう気をつけます。
③ 輪郭のカットのなめらかな線の外側にF896で斜角をつけます。筋肉の影に斜角をつけるときは、そのふくらみの外側に

打つようにします。打ち方はベラと同様に、カット線に刻印の三角形の底辺部分を当てて、木づちで連打します。
④ 輪郭と筋肉の影の細かい部分の斜角をF895で連打します。

馬

ファイギアーカー ビンダの基礎

ファイギアーカービンダは、基本的には唐草のときと同じで、適度に湿らせた革にスーパーカッターと刻印工具でカービングをします。限られた革の厚みの中で、よりリアルに立体感を出すために、最後の仕上げにもモデラを使うのが特徴です。



ファイギアー カービングとは

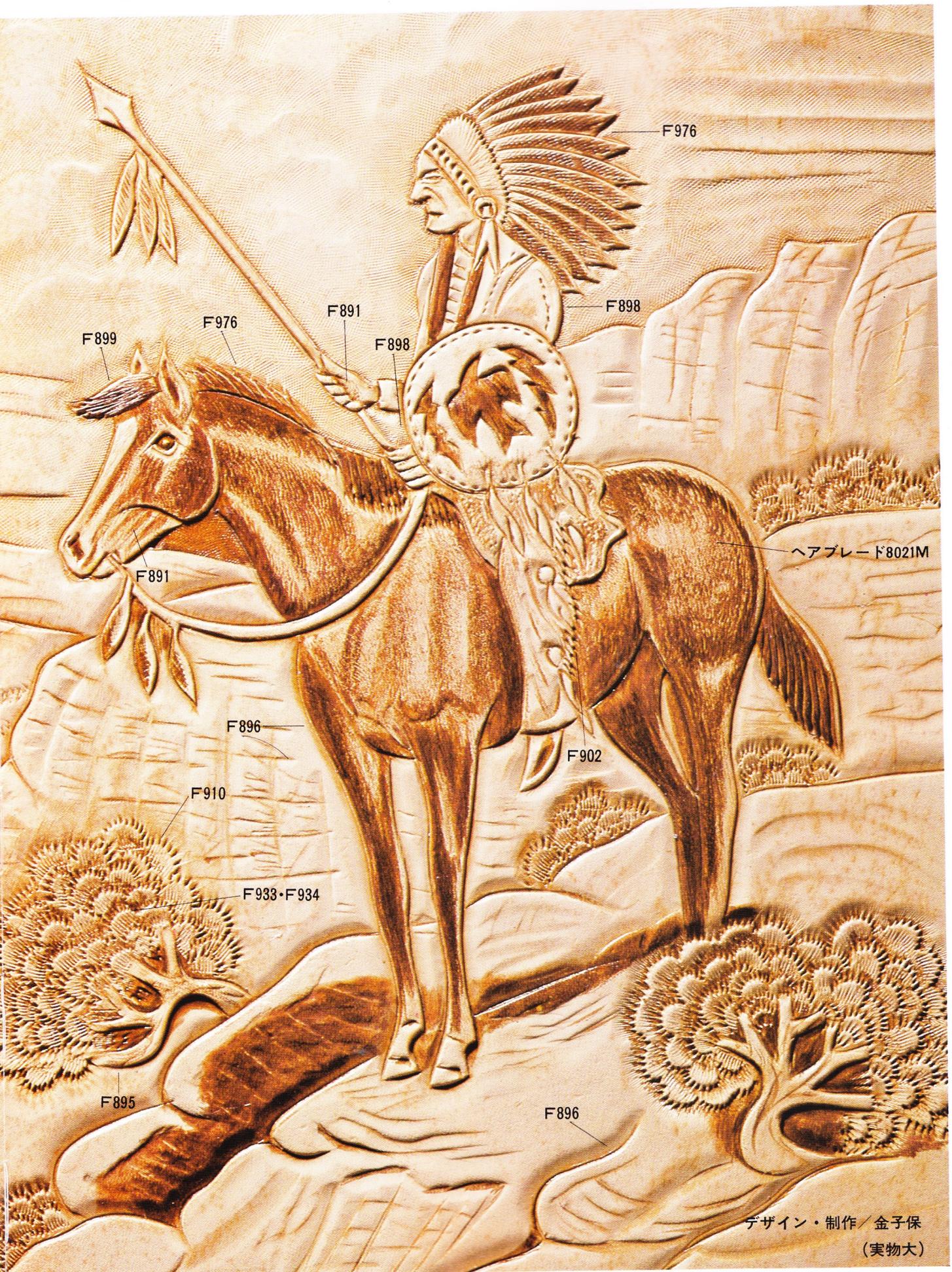
いわゆるカービングと呼ばれる図案化された唐草模様や幾何学模様に対して、西部の荒野、牛を追うカウボーイ、森から飛び立つ鳥、谷川ではねる魚……というような風景、動物、または人物像などをよりリアルに、写実的に表現する技法のことをファイギアーカービングといいます。

ファイギアーカービングの技術は、基本的には唐草模様のカービングと同じです。スーパーカッターによるカットニングと刻印を革に打ちつけるスタンピングとから成り立ち、仕上げにモデラを使います。ただし、創作上の目的や用途は違いますから、写実的な表現をより効果的に見せるためには、次の点に留意して作業をします。●はつきりした輪郭をつける。●陰影を効果的につける。●立体感を出す。●遠近感を出す。●細部を明確に表現する。●着色を自然な感じにする。

ファイギアーカービングの刻印工具は、風景、動物など、必要に応じて作られ、次第に改良されて今日に至っています。それらをどのようにつけていくかは、基礎のページをよく読みながら、実際に革で充分練習することが大切です。



この作品の道具／刻印(Fの891・895・896・900・899・898・933・934・993・902・941・976・910) スーパーカッター(刃=8011・8012・ヘアブレード8021M) モデラ



ファイ ギア アー カー ビ ング の 基 礎